

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172		
法人名	平成フードサブライ株式会社		
事業所名	グループホーム 稲武の家 (1号館)		
所在地	愛知県豊田市黒田町一色310番地		
自己評価作成日	令和2年 9月15日	評価結果市町村受理日	令和2年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2376200172-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
聞き取り調査日	令和2年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田舎ながらのゆったりとした空気の中で疑似家族としての生活を送れている。勤続10年以上の職員がほとんどで落ち着いた雰囲気も保たれている。入居者様のほとんどが稲武に昔より暮らされており地元根付いた生活をしてこられている。医師、理容師、ボランティアの方々等関係するほとんどの方々が入居者様が以前より持たれる地域の資源になっている。五平餅作、朴葉寿司、からすみ作り等の郷土食を皆で作って食べたりと施設での暮らしが自宅での暮らしの延長となるように日々心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
 ②軽減要件確認票
 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関口に理念を常に掲げ職員、利用者様、御家族様の目に留まるようにしている。今年度はユニット毎に理念に基づいた考え方や対応例の実例を挙げ全職員で意見を述べ合い理念の持つ意味合いへの理解を深めることが出来た。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェへの参加も恒常化し懐かしい顔や街並みを楽しめる機会となっていたが現状コロナウイルス感染拡大防止の観点より参加を見合わせている現状である。関わりの持てなかった地元企業より消毒液の提供を受け地域との繋がりを実感した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は外部との密な接触が困難であった。利用者様の御家族様や職員の家族が認知症理解についての発信者となっていたように情報の伝え方や内容にも意図を持って行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染防止対応に於ける閉塞感を打破すべく地域との新たな関わり合いが持てないかを模索している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	豊田みよしケアネットワークにも参加し必要な情報をいち早く入手出来る体制である。人と人との接触無しに専門的な見地を入手可能な有効な手段となっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束適正化検討委員会を開催すると共にグループの必須研修項目としても取り上げられている。身体拘束そのものよりも起こり得る原因に着目し、業務の中で事前に原因の目が摘めるように日々意識している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に必須研修項目として毎年研修を行っている。アンガーマネジメントも学び冷静な対応が可能である。ベテラン職員が揃い利用者様との距離も近いが故にスピーチロック等無意識の虐待が起きてしまわぬように留意している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を使用されている利用者様も増加しており権利擁護意識の高まりを現場でも感じられるようになってきた。制度の意義と有用性を理解し利用者様の利益を最大限守っていけるように配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービスの特性、利点、欠点を詳細に説明し入居後の不安や疑問が解消出来るように努めている。説明、同意、契約のプロセスを徹底し不利益を被られることの無いように細心の注意を払っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウィルス感染防止に於ける観点より面会の頻度も減り職員との接触も薄れている現状である。内部の見通しが悪くなった今、施設の回報を作成し利用者様の輝いた姿、笑顔を発信している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う研修会を屋外で行う等の工夫をし職員が意見を述べられる場の開設を維持している。また本部直通のホットラインも全職員使用可能となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得、就いた役職等により給与が変動する仕組みとなっている。また資格取得に於ける制限もなく社員、パート、アルバイトの身分に関わらず努力をすれば各々が報われるシステムとなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを掲げて研修会を開催している。日々変化していく様々な情報に触れ、学び日々の業務に反映出来る様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ外での交流は一部職員による限定的なものとなってしまっている。新たな法制や制度、取り巻く環境の変化等その全てにアンテナを張り利用者様の利益に最大限繋げていく体制の構築が課題でもある。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何気ない会話の中で発せられる本当の想いを汲み取れる様に努めている。傾聴や言葉の精査のみならず表情やしぐさにも気配り、目配りし内包的なニーズの把握にも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の不安、入居への葛藤を抱えて見える御家族様も多い。まず頑張ってもらった現状を肯定したうえで今後の生活への相談を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状のみならず今後の人生について御本人様、御家族様双方の想いを把握するように努めている。その場しのぎのサービス導入ではなく今後の想いにも寄り添える様なサービスの決定を意識している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームな雰囲気の中で利用者様も委縮や遠慮することなく生活されているように感じられる。近い距離間の中で専門職としての一線を越えてしまわぬよう常に意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	昨年12月には家族会を開催し御本人様、御家族様、職員との一体感を得られた。コロナウィルスの感染拡大防止の観点より本年度前期の家族会は中止となった。感染源にならぬようと御家族様の配慮もあり足が遠のいてしまっているのが実情である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	このような状況下であっても医師、理容師、食材の配達等生活に必要な不可欠な支援は継続されている。極力入館を避けて頂く御不便や御迷惑を顧みずに支援を受けながら生活出来ている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立や孤独防止の支援が画一的な対応や一方的な干渉になってしまわぬ様に留意している。各々が独立された一人の人間であり個々の特性があって然るべきである事を常に念頭に置くようにしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関わりについては積極的に行動出来ていないのが実情である。相談があった際はグループ運営の利点を活かし必要に応じたサービスの選択肢を提案している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々同じ時間を過ごす中で個々の思いや意向を把握、共有出来る様に努めている。施設としての日課の中にも各々の決定や嗜好が反映される毎日となるように配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人様、御家族様より得られた断片的な情報のみで物事を判断してしまわぬ様に留意している。情報を基に肉付けを行い、その時折に御本人様が何を考えどのよう感じられたかを重要視している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	散歩、外気浴、裁縫、歌唱、調理補助等各々が楽しいと感じられる時間を大切にしている。状況や状態の変化にも留意し一方的な決めつけで無理強いになってしまわぬ様にも日々目配りしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的にはカンファレンスに御本人様の参加をお願いし想いを述べて頂いている。御家族様の想いも事前に確認し双方の想いを尊重しながら未来を描き前向きな決定が可能となるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、出来事、印象に残った言動が毎日個別に記録されている。出勤時には全職員が目を通し情報の共有がなされている。既出の情報をより掘り下げ介護計画が個の想いに沿ったものとなるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウイルス感染拡大の余波もあり施設内に於いても生活様式が大きく変化した一年であった。利用者様、御家族様共に多大な我慢を強いることになった。リモート面会やテレビ電話等新たな取り組みの可能性を模索している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当方より積極的な関係性を築いてこれなかった地元の企業よりコロナ禍におけるホームへの支援として地元で作った食事や消毒液を提供して頂いた。しっかりと地元へ根付き認知されたホームであったことを喜びつつも我々の認識不足が恥ずかしく感じられた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元へ協力医が2名見え定期診療、訪問診療、往診、看取りにも対応して頂いている。入居者様のほとんどが入居以前よりの主治医であり病状以外の情報にも精通されている。長期的な情報の蓄積もあり安心出来る医療体制が実現出来ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も職員として勤務している。介護現場では不足しがちな医療的な視点での判断や処置が可能となっている。訪問看護師の協力を仰ぎ入院せずにホームでの生活を継続出来た事案もあった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院(医師、看護師、相談員)御家族様、施設の三者で最新の情報、予測される予後等を共有し退院後の安心した生活に繋がられるように努めている。総合病院主催の会議や研修に参加する機会も多く関係性は良好である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、全員に看取りについての説明を行っている。協力医2名にも看取りへの協力を快諾を頂いている。病院への入院、治療の一択ではなく住み慣れたホームを終の棲家と捉える選択肢も提案している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年行っている消防団による救命講習はホームへの入館制限もあり中止となった。急変時や事故発生時の対応をテーマに職員間で研修を行い判断基準や対応について話し合い疑問点や不安点を解消する事が出来た。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	計画を立て自然災害時、火災時の避難訓練を行っている。避難確保計画に基づき避難経路、場所、方法を明確化している。実際に職員が避難場所に赴き情報収集を行い避難所での生活もイメージが具現化されている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性別、性格、生活歴等その方を形成する全ての要素に目を向け対応出来る様にしている。経験豊富な職員が多い故に過去の類似例に固辞し型にはめ個を失ってしまわぬ様に意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け(説明)、同意(納得)、行動のプロセスを重要視している。守るべき一線を意識しながら介護者、要介護者以上の関係性の構築に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、裁縫、塗り絵、読書、昼寝等皆様気ままに生活して見える。取り組まれる事に対して笑顔で声掛けを行い自由に過ごせる環境、空間作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今迄着てこられた服を継続して着用されている。起床後、入浴後の整容等も個々の状態に合わせて御本人様の納得が得られるように意識している。化粧をしたり、アクセサリーを身に付けたりと各々の意思で自由に過ごして見える。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	咀嚼、嚥下等状態に合わせた形態の提供にて全ての入居者様が食事を楽しめる様に工夫している。朴葉寿しや五平餅等の伝統食もメニューに取り入れ準備段階より皆で行いより一層の美味しさとなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量を把握、提供、記録し変化を見逃さぬ様に努めている。変化を認めた場合は医師とも連携し栄養のバランスを維持できる様に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員が口腔ケアを行う環境となっている。口腔ケアの持つ健康維持への重大な意義を職員は理解し入居者様にも周知している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムとパターンを把握し意思に反した画一的な誘導を行ってしまわぬ様に意識している。個々のADL、希望も考慮しポータブルトイレの使用等安全、安楽に排泄行為が可能となっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全入居者様にチェック表を作成し排便のリズムや量をリアルタイムに把握、確認している。便薬服用に難色を示される方にはしっかりと説明を行い安心を前提に便秘の解消を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に一度は入浴が可能な体制となっている。入浴前に意思の確認、バイタルチェックを行い気持ち良く安全な入浴となるように努めている。湯の温度、入浴時間も好みに設定し単に清潔保持の為の行為となってしまわぬ様に留意している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リズムある生活、適度な運動、精神の平穩、日々の満足感、搔痒感の解消等様々な要素が安眠に繋がる事を職員は理解し意識を持って業務に就いている。全室個室となっており消灯時間の設定等の制約も設けていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にファイルが作成されており既往歴、処方箋、検査結果等が一瞥出来るようになっている。また誤薬防止の意識も高く薬のセッティングから服用に至るまで複数職員により何重ものチェックが行われる仕組みとなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで担って来られた役割りを特別な形ではなく生活の中の一場面として行って頂ける様に努めている。コーヒーやコーラ等を個々の好みで嗜んだり他館まで自由に赴き気の合う方とお話をしたりと個人単位でも楽しみごとのある生活となるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍での生活となり施設としての外出は減少しているのが実情である。御家族様も現在の状況を鑑みて積極的な外出を控えて下さっている。敷地内には桜が咲き、野菜が実り、野鳥が舞う様な豊かな自然がある。身近な資源を活かし外出の幅を上げられるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に施設が行っているが財布(金銭)が手元に無いと不安を感じられる利用者様も見える。御家族様とも相談のうえ御自身に管理を任せているケースもある。希望に応じて欲しい物を購入して頂き入居前と遜色ない生活が送れる様に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナウイルス感染拡大により外部との電話、手紙でのやり取りは増加してきた。誕生日や母の日、父の日等に荷物が届く事も多い。すぐに御本人様にお渡しし御礼の電話を繋ぐ機会も増えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の作品、皆で協力して出来上がった作品、楽しかった思い出の写真等が季節、行事に応じてホールに展示、掲示してあり温かみのある空間となっている。作品や写真を見て感想を述べられたり出来事を思い出して皆で大笑いされる場面もある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間内には居場所、移動に制限は一切設けていない。テレビを見たり、本を読んだり、こたつで団欒したり、気の合う方の近くに移動し話をしたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に御家族様にもリロケーションイメージについての説明を行い、古くても愛着のある品々に囲まれて暮らす意義の大きさを理解して頂いている。筆筒、テレビ、神棚、写真立て等出来る限り自由に配置して頂き習慣や思い出を大切にしながら生活して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は完全バリアフリー構造となっており移動手段を問わず制約のない行動が可能となっている。自室やユニット内は勿論の事、他ユニットや屋外にも自由に出入りされる様子が見られる。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172	
法人名	平成フードサプライ株式会社	
事業所名	グループホーム 稲武の家 (2号館)	
所在地	愛知県豊田市黒田町一色310番地	
自己評価作成日	令和2年 9月15日	評価結果市町村受理日 令和2年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2376200172-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室	
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地	
聞き取り調査日	令和2年10月5日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田舎ながらのゆったりとした空気の中で疑似家族としての生活を送れている。勤続10年以上の職員がほとんどで落ち着いた雰囲気は保たれている。入居者様のほとんどが稲武に昔より暮らされており地元根付いた生活をしてこられている。医師、理容師、ボランティアの方々等関係するほとんどの方々が入居者様が以前より持たれる地域の資源になっている。五平餅作、朴葉寿司、からすみ作り等の郷土食を皆で作って食べたりと施設での暮らしが自宅での暮らしの延長となるように日々心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
 ②軽減要件確認票
 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関口に理念を常に掲げ職員、利用者様、御家族様の目に留まるようにしている。今年度はユニット毎に理念に基づいた考え方や対応例の実例を挙げ全職員で意見を述べ合い理念の持つ意味合いへの理解を深めることが出来た。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェへの参加も恒常化し懐かしい顔や街並みを楽しめる機会となっていたが現状コロナウイルス感染拡大防止の観点より参加を見合わせている現状である。関わりの持てなかった地元企業より消毒液の提供を受け地域との繋がりを実感した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は外部との密な接触が困難であった。利用者様の御家族様や職員の家族が認知症理解についての発信者となっていたように情報の伝え方や内容にも意図を持って行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染防止対応に於ける閉塞感を打破すべく地域との新たな関わり合いが持てないかを模索している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	豊田みよしケアネットワークにも参加し必要な情報をいち早く入手出来る体制である。人と人との接触無しに専門的な見地を入手可能な有効な手段となっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束適正化検討委員会を開催すると共にグループの必須研修項目としても取り上げられている。身体拘束そのものよりも起こり得る原因に着目し、業務の中で事前に原因の目が摘めるように日々意識している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に必須研修項目として毎年研修を行っている。アンガーマネジメントも学び冷静な対応が可能である。ベテラン職員が愉い利用者様との距離も近いが故にスピーチロック等無意識の虐待が起きてしまわぬように留意している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を使用されている利用者様も増加しており権利擁護意識の高まりを現場でも感じられるようになってきた。制度の意義と有用性を理解し利用者様の利益を最大限守っていけるように配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービスの特性、利点、欠点を詳細に説明し入居後の不安や疑問が解消出来るように努めている。説明、同意、契約のプロセスを徹底し不利益を被られることの無いように細心の注意を払っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウィルス感染防止に於ける観点より面会の頻度も減り職員との接触も薄れている現状である。内部の見通しが悪くなった今、施設の回報を作成し利用者様の輝いた姿、笑顔を発信している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う研修会を屋外で行う等の工夫をし職員が意見を述べられる場の開設を維持している。また本部直通のホットラインも全職員使用可能となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得、就いた役職等により給与が変動する仕組みとなっている。また資格取得に於ける制限もなく社員、パート、アルバイトの身分に関わらず努力をすれば各々が報われるシステムとなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを掲げて研修会を開催している。日々変化していく様々な情報に触れ、学び日々の業務に反映出来る様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ外での交流は一部職員による限定的なものとなってしまっている。新たな法制や制度、取り巻く環境の変化等その全てにアンテナを張り利用者様の利益に最大限繋げていく体制の構築が課題でもある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何気ない会話の中で発せられる本当の想いを汲み取れる様に努めている。傾聴や言葉の精査のみならず表情やしぐさにも気配り、目配りし内包的なニーズの把握にも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の不安、入居への葛藤を抱えて見える御家族様も多い。まず頑張ってもらえた現状を肯定したうえで今後の生活への相談を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状のみならず今後の人生について御本人様、御家族様双方の想いを把握するように努めている。その場しのぎのサービス導入ではなく今後の想いにも寄り添える様なサービスの決定を意識している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームな雰囲気の中で利用者様も委縮や遠慮することなく生活されているように感じられる。近い距離間の中で専門職としての一線を越えてしまわぬよう常に意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	昨年12月には家族会を開催し御本人様、御家族様、職員との一体感を得られた。コロナウィルスの感染拡大防止の観点より本年度前期の家族会は中止となった。感染源にならぬようにと御家族様の配慮もあり足が遠のいてしまっているのが実情である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	この様な状況下であっても医師、理容師、食材の配達等生活に必要な不可欠な支援は継続されている。極力入館を避けて頂く御不便や御迷惑を顧みずに支援を受けながら生活出来ている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立や孤独防止の支援が画一的な対応や一方的な干渉になってしまわぬ様に留意している。各々が独立された一人の人間であり個々の特性があって然るべきである事を常に念頭に置くようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関わりについては積極的に行動出来ていないのが実情である。相談があった際はグループ運営の利点を活かし必要に応じたサービスの選択肢を提案している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの更新時や見直しには必ず一人一人の暮らしの希望、意向と御家族様から意向を聞き取り、ケアプランに位置付けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様からの情報提供や入所前の介護サービス機関からの情報を全職員が必ず把握するようにしている。日常の会話の中からも本人の気持ちをくみ取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの趣味の把握や行動を見守りながら決定できるように配慮している。会話の中からもその日の状態を読み取れる様に努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス開催時、検討が必要な方について意見を出してもらい、見直しが必要な時は新たに作成し現状に即した介護計画にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は日記的にはならない様にその日の行動の状況や言葉の様子、職員からの促しでの結果等一人一人の特徴を記し、モニタリング時には活かせる様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウィルス感染拡大の余波もあり施設内に於いても生活様式が大きく変化した一年であった。利用者様、御家族様共に多大な我慢を強いることになった。リモート面会やテレビ電話等新たな取り組みの可能性を模索している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当方より積極的な関係性を築いてこれなかった地元の企業よりコロナ禍におけるホームへの支援として地元で作った食事や消毒液を提供して頂いた。しっかりと地元へ根付き認知されたホームであったことを喜びつつも我々の認識不足が恥ずかしく感じられた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元へ協力医が2名見え定期診療、訪問診療、往診、看取りにも対応して頂いている。入居者様のほとんどが入居以前よりの主治医であり病状以外の情報にも精通されている。長期的な情報の蓄積もあり安心出来る医療体制が実現出来ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も職員として勤務している。介護現場では不足しがちな医療的な視点での判断や処置が可能となっている。訪問看護師の協力を仰ぎ入院せずにホームでの生活を継続出来た事案もあった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院(医師、看護師、相談員)御家族様、施設の三者で最新の情報、予測される予後等を共有し退院後の安心した生活に繋がられるように努めている。総合病院主催の会議や研修に参加する機会も多く関係性は良好である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、全員に看取りについての説明を行っている。協力医2名にも看取りへの協力を快諾を頂いている。病院への入院、治療の一択ではなく住み慣れたホームを終の棲家と捉える選択肢も提案している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年行っている消防団による救命講習はホームへの入館制限もあり中止となった。急変時や事故発生時の対応をテーマに職員間で研修を行い判断基準や対応について話し合い疑問点や不安点を解消する事が出来た。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	計画を立て自然災害時、火災時の避難訓練を行っている。避難確保計画に基づき避難経路、場所、方法を明確化している。実際に職員が避難場所に赴き情報収集を行い避難所での生活もイメージが具現化されている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一日のスケジュールに追われ画一的な対応にならない様、常に心掛けている。日頃の些細な一場面を積み重ね個々としての視点を失ってしまわぬ様に意識して業務に当たっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の移動も少なく、慣れ親しんだ職員が対応できる体制となっており、情報もその都度共有が出来る様に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員も固定されており、本人の意思決定が出来易い関係となっている。個人の性格やその日の精神状態の把握がほぼ出来ており、落ち着いた生活が出来る様に支援をする事が出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の会話の中から、ご本人の好み等を把握し、会話をしながら服装を決定できる支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の食文化を継続しながらアレンジを加え、食欲に繋がる食事の提供を行っている。又伝統的なメニューである五平餅・朴葉餅等、ご自分で作り楽しめる機会も提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量は常に把握出来ており、定期的に水分は提供しており飲み切る事が出来る様に見守りをしている。又お茶の苦手な方はおやつの際にコーヒー・ココア等の提供で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを十分理解したうえで、毎食後のケアを個々の状態に合わせたケアを実施している。又、義歯の消毒も定期的に行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けし、リズムよく排泄に繋がるように支援を行っている。又声掛けはするが無理に強要はせず本人の意思にも任せている。夜間はポータブルトイレの使用で安心安楽にも気を配っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排便チェック表を記入し、定期的に排泄があるように便薬等の服用をして貰っている。又、水分の摂取の提供に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴出来る様に支援を行っている。入浴をその日に希望される方には、その都度対応できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせた休息時間を提供したり、日中の精神状態により不眠になる方のケアについて申し送り等で伝える様にしている。日中に不安の解決を必ず行い、安心して眠れる様に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にファイルが作成されており、受診後の薬のチェックを必ず確認し職員が把握する体制を取っている。既往歴等より薬の種類、効能等の把握で個人の状況も随時主治医に報告出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、洗濯物量み、茶碗拭き等個人が役割を持って共同生活をして見える。食べなれた伝統料理を利用者様に指導頂いて、職員が教わりながら一緒に味わう事が出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中、外出は限られた方しか出来ないのが現状です。面会も制限させて頂いており、御家族や地域の方も疎遠になりつつある。御家族様対応の受診時、道の駅に立ち寄り外出気分を味わって見える方もおられます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設の管理となっており、個人で所持を望まれる方も見えない。館内で床屋さんのサービスがある時は、ご本人の訴えでお財布より支払わせていただく事の確認も出来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人宛の電話はすぐに繋げさせて頂いている。手紙を出されたいときは、切手の購入や投函は職員がさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花瓶には季節を感じられる生花や造花が活けられており、行事等の写真も提示して。習字をされる習慣は昔ならではで、季節感が分かる言葉が飾られており、利用者様にとっても居心地のよい要因となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの決まった席で読書をされたり、ソファで気の合う方同士談話されたり、テレビ鑑賞をされ気を使わなくてもよい場所づくりを支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使っていた物を持参される方も見える。御家族の写真を置いて見える方も多い。居室内で動かれる方に関して、動線に気を付け安心して暮らせる場所になるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	完全バリアフリーとなっており、車椅子、シルバーカー等制限なく移動が出来る様になっている。トイレの場所も読み取れる様に大きな字で提示してあり、自立の支援に繋がれるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172	
法人名	平成フードサプライ株式会社	
事業所名	グループホーム 稲武の家 (3号館)	
所在地	愛知県豊田市黒田町一色310番地	
自己評価作成日	令和2年 9月15日	評価結果市町村受理日 令和2年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2376200172-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地
聞き取り調査日	令和2年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田舎ながらのゆったりとした空気の中で疑似家族としての生活を送れている。勤続10年以上の職員がほとんどで落ち着いた雰囲気も保たれている。入居者様のほとんどが稲武に昔より暮らされており地元根付いた生活をしてこられている。医師、理容師、ボランティアの方々等関係するほとんどの方々が入居者様が以前より持たれる地域の資源になっている。五平餅作、朴葉寿司、からすみ作り等の郷土食を皆で作って食べたりと施設での暮らしが自宅での暮らしの延長となるように日々心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
 ②軽減要件確認票
 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関口に理念を常に掲げ職員、利用者様、御家族様の目に留まるようにしている。今年度はユニット毎に理念に基づいた考え方や対応例の実例を挙げ全職員で意見を述べ合い理念の持つ意味合いへの理解を深めることが出来た。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェへの参加も恒常化し懐かしい顔や街並みを楽しめる機会となっていたが現状コロナウイルス感染拡大防止の観点より参加を見合わせている現状である。関わりの持てなかった地元企業より消毒液の提供を受け地域との繋がりを実感した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は外部との密な接触が困難であった。利用者様の御家族様や職員の家族が認知症理解についての発信者となっていたように情報の伝え方や内容にも意図を持って行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染防止対応に於ける閉塞感を打破すべく地域との新たな関わり合いが持てないかを模索している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	豊田みよしケアネットワークにも参加し必要な情報をいち早く入手出来る体制である。人と人との接触無しに専門的な見地を入手可能な有効な手段となっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束適正化検討委員会を開催すると共にグループの必須研修項目としても取り上げられている。身体拘束そのものよりも起こり得る原因に着目し、業務の中で事前に原因の目が摘めるように日々意識している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に必須研修項目として毎年研修を行っている。アンガーマネジメントも学び冷静な対応が可能である。ベテラン職員が愉い利用者様との距離も近いが故にスピーチロック等無意識の虐待が起きてしまわぬように留意している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を使用されている利用者様も増加しており権利擁護意識の高まりを現場でも感じられるようになってきた。制度の意義と有用性を理解し利用者様の利益を最大限守っていけるように配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービスの特性、利点、欠点を詳細に説明し入居後の不安や疑問が解消出来るように努めている。説明、同意、契約のプロセスを徹底し不利益を被られることの無いように細心の注意を払っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウィルス感染防止に於ける観点より面会の頻度も減り職員との接触も薄れている現状である。内部の見通しが悪くなった今、施設の回報を作成し利用者様の輝いた姿、笑顔を発信している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う研修会を屋外で行う等の工夫をし職員が意見を述べられる場の開設を維持している。また本部直通のホットラインも全職員使用可能となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得、就いた役職等により給与が変動する仕組みとなっている。また資格取得に於ける制限もなく社員、パート、アルバイトの身分に関わらず努力をすれば各々が報われるシステムとなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを掲げて研修会を開催している。日々変化していく様々な情報に触れ、学び日々の業務に反映出来る様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ外での交流は一部職員による限定的なものとなってしまっている。新たな法制や制度、取り巻く環境の変化等その全てにアンテナを張り利用者様の利益に最大限繋げていく体制の構築が課題でもある。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何気ない会話の中で発せられる本当の想いを汲み取れる様に努めている。傾聴や言葉の精査のみならず表情やしぐさにも気配り、目配りし内包的なニーズの把握にも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の不安、入居への葛藤を抱えて見える御家族様も多い。まず頑張っただけの現状を肯定したうえで今後の生活への相談を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状のみならず今後の人生について御本人様、御家族様双方の想いを把握するように努めている。その場しのぎのサービス導入ではなく今後の想いにも寄り添える様なサービスの決定を意識している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームな雰囲気の中で利用者様も委縮や遠慮することなく生活されているように感じられる。近い距離間の中で専門職としての一線を越えてしまわぬよう常に意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	昨年12月には家族会を開催し御本人様、御家族様、職員との一体感を得られた。コロナウィルスの感染拡大防止の観点より本年度前期の家族会は中止となった。感染源にならぬようにと御家族様の配慮もあり足が遠のいてしまっているのが実情である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	このような状況下であっても医師、理容師、食材の配達等生活に必要な不可欠な支援は継続されている。極力入館を避けて頂く御不便や御迷惑を顧みずに支援を受けながら生活出来ている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立や孤独防止の支援が画一的な対応や一方的な干渉になってしまわぬ様に留意している。各々が独立された一人の人間であり個々の特性があって然るべきである事を常に念頭に置くようにしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関わりについては積極的に行動出来ていないのが実情である。相談があった際はグループ運営の利点を活かし必要に応じたサービスの選択肢を提案している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々同じ時間を過ごす中で個々の思いや意向を把握、共有出来る様に努めている。施設としての日課の中にも各々の決定や嗜好が反映される毎日となるように配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人様、御家族様より得られた断片的な情報のみで物事を判断してしまわぬ様に留意している。情報を基に肉付けを行い、その時折に御本人様が何を考えどのよう感じられたかを重要視している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	散歩、外気浴、裁縫、歌唱、調理補助等各々が楽しいと感じられる時間を大切にしている。状況や状態の変化にも留意し一方的な決めつけで無理強いになってしまわぬ様にも日々目配りしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的にはカンファレンスに御本人様の参加をお願いし想いを述べて頂いている。御家族様の想いも事前に確認し双方の想いを尊重しながら未来を描き前向きな決定が可能となるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、出来事、印象に残った言動が毎日個別に記録されている。出勤時には全職員が目を通し情報の共有がなされている。既出の情報をより掘り下げ介護計画が個の想いに沿ったものとなるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウィルス感染拡大の余波もあり施設内に於いても生活様式が大きく変化した一年であった。利用者様、御家族様共に多大な我慢を強いることになった。リモート面会やテレビ電話等新たな取り組みの可能性を模索している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当方より積極的な関係性を築いてこれなかった地元の企業よりコロナ禍におけるホームへの支援として地元で作った食事や消毒液を提供して頂いた。しっかりと地元へ根付き認知されたホームであったことを喜びつつも我々の認識不足が恥ずかしく感じられた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元へ協力医が2名見え定期診療、訪問診療、往診、看取りにも対応して頂いている。入居者様のほとんどが入居以前よりの主治医であり病状以外の情報にも精通されている。長期的な情報の蓄積もあり安心出来る医療体制が実現出来ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も職員として勤務している。介護現場では不足しがちな医療的な視点での判断や処置が可能となっている。訪問看護師の協力を仰ぎ入院せずにホームでの生活を継続出来た事案もあった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院(医師、看護師、相談員)御家族様、施設の三者で最新の情報、予測される予後等を共有し退院後の安心した生活に繋がられるように努めている。総合病院主催の会議や研修に参加する機会も多く関係性は良好である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、全員に看取りについての説明を行っている。協力医2名にも看取りへの協力を快諾を頂いている。病院への入院、治療の一択ではなく住み慣れたホームを終の棲家と捉える選択肢も提案している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年行っている消防団による救命講習はホームへの入館制限もあり中止となった。急変時や事故発生時の対応をテーマに職員間で研修を行い判断基準や対応について話し合い疑問点や不安点を解消する事が出来た。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	計画を立て自然災害時、火災時の避難訓練を行っている。避難確保計画に基づき避難経路、場所、方法を明確化している。実際に職員が避難場所に赴き情報収集を行い避難所での生活もイメージが具現化されている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり話を聞き、その方の想いを把握できるように心掛けている。言葉がけにもその方の人格を把握し、個々に対応できるように気配りを怠らない様になっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や、表情から本人の思いを把握するように努めている。職員の移動も無く、常より想いを発信しやすい雰囲気作りを心掛け、自己決定が出来易い状況を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のリズムやペースを大切に、したい事や楽しく感じられる事の把握に努め、提供出来る様に準備を行い、自由に過ごせる環境作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服を選んで頂いたり好みのスタイルを職員と話しながら決めている。コロナで出かけられない事から、ご本人の希望で職員が地元で新しい服を購入し、好みでなければ返品も出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	五平餅や朴葉寿司など昔より馴染み深いメニューを取り入れ準備段階より利用者様にも参加して頂き楽しい食事になるように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量や適量を把握し、様子観察し、栄養バランスを維持できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じながら毎食後口腔ケアを行っている。入れ歯の洗浄消毒も定期的に行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムやパターンをチェック表等で把握し、誘導したり、その方の訴えに応じる様にして、自立に向けた支援を行っている。また、夜間帯はポータブルトイレ使用も行き、本人の意思を尊重し、安全にも気を付けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々のチェック表を作成し、量、回数が把握できる様になっている。水分摂取を促したり、1日1回のヨーグルトを提供し便秘予防の一環としている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に1回の入浴を基本としているが、本人の意思を確認しご希望があれば対応させて頂いている。一般浴に入れない方は、シャワー浴の提供となるが少しでも満足が出来る様に時間を掛けて対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動をなるべく支援し、リズムある生活をし、精神的にも安定出来る様に一人ひとりをサポートするよう努力している。ここが棲家である事の認識を持って頂ける対応に心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりにファイルが作成してあり既往歴、処方箋、検査結果等分かるようになっている。薬のセッティングから服用までチェックが何度もされる体制となっており、誤薬防止への意識も高い。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、テーブル拭き等、個々の能力、好みにあった役割りを継続できるように支援を続けている。その方の体調に合わせて好きな塗り絵や工作等無理をしない様に見守りをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年のコロナ禍の影響で自由に外出が出来ない状況が続いています。今の状況になる前は、地域のほっこりサロンに出掛けたり、御家族の支援で食事に出掛けたりすることが出来ていた。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホーム事務所での預かりとなっている。希望で職員と買い物に出かけて見えたがコロナ禍より今は出かける事を見合わせるしか仕方がない状況となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人に掛かってきた電話はすぐに取次お話しして頂いている。希望があれば事務所の電話で御家族に掛ける支援も行っている。手紙を出される時は、郵便配達の方が来館時に預かって下さる事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の食堂空間は壁に利用者様の塗り絵や工作等を展示させて頂き季節感を感じて頂ける空間としている。またテレビを囲み、鑑賞したり談話ができる様にソファの設置を行い以後が個地良い空間にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの椅子は話の合う方向土座って頂くようセッティングしているが、ホールのソファは自由に座る事ができ、その日ごとにご自分の思いで自由に過ごせる様に支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や御家族と相談し、テレビや写真立て仏壇等、今まで使用していた物を持ち込まれ、ここで生活しているという実感を持って頂く事で落ち着いた生活を送れる工夫をさせて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は完全なバリアフリー構造なので車椅子自走される方や、自室やユニットへの移動も見守りながら自由に出来ている。また、施設前はかなり広く、安全に散歩が出来る環境となっている。		